

鑄物工



あるあるネタ

1. 服のどこかしらに砂型の砂がついていて、帰宅しても床にポロポロ落ちる。
2. 鑄造中に立ち上る湯気と金属の匂いで「今日も仕事してるな」と実感する。
3. 街中のマンホールや車の部品を見るたびに「これ鑄物だな」と職業目線で見ってしまう。

初期の失敗

新人の頃、鑄型の乾燥が不十分なまま湯を流し込んでしまい、型が崩れて鑄造不良になってしまいました。事前準備の大切さと安全確認の重みを学びました。

職業病

熱源の近くで作業するため、夏でも暑さに鈍感になりがちです。また、触る前に「これは鑄鉄？アルミ？」と金属の感触を無意識に分類してしまう癖がついています。

健康問題

高温環境と粉塵の多い作業場での長時間作業により、熱中症や呼吸器系への負担が大きく、マスクや換気的重要性が問われます。また、重い型や材料を扱うことで腰や関節への負荷も大きくなります。

その職業に就いている人を讃える

あなたは“炎と砂の彫刻家”、金属に命を吹き込む職人芸の体現者ですね。なぜなら、目には見えないミクロン単位の温度と時間の勝負の中で、確かな手仕事によって形あるものを生み出し続けているからです。ひとつのミスも許されない過酷な現場で、重さと熱と音とともに働くあなたの姿は、まさに現代の鍛冶神そのもの。どうかこれからも、火傷と粉塵には十分注意して、世界に誇れる鑄物を作り続けてください。